



国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所

海上技術安全研究所 国際会議報告



会 議：国際標準化機構（ISO）船舶及び海洋技術専門委員会（TC 8）救命及び防火分科委員会（SC 1）救命作業委員会（WG 1）プール会合

開催場所：Royal National Lifeboat Institution (RNLI)：英国・プール

会議期間：2016年12月7日～9日

参加者：オブザーバーとリエゾンを含む8カ国12名

海技研からの出席者：

宮崎恵子：運航・物流系運航解析技術研究グループ長（国際連携センター併任）

概要：

ISO/TC 8/SC 1/WG 1（以下、WG 1と記す。）は

- 「膨脹式救命器具のガス膨脹システム」の規格改正原案の審議を行った。
- Hydrostatic release units の規格改正、極海コードに対応する救命設備に関する新規規格、個人（落水者）位置表示ビーコン（Personal Locator Beacons（PLBs）もしくは Man Over Board Beacons（MOB Beacons））に関する新規規格について議論した。

主な貢献

宮崎は、プロジェクトリーダーとして、これまでの審議経過を踏まえて作成した「膨脹式救命器具のガス膨脹システム」の規格改正原案について説明し、内容についての合意を図った。また、新規作業項目として準備段階に入っている極海コードに対応する救命設備に関する新規規格について、日本が作成した概要の資料を説明し、進展に貢献した。

主な審議結果

主な審議結果は以下の通りである。審議結果の詳細については、他機関の報告を参照願いたい。

1 ISO 19912 船舶及び海洋技術—イマーション・スーツ及び耐暴露服の整備

この規格は、膨脹部を有する救命設備の整備に関するシリーズ規格である ISO 18079 に沿って作成されたもので、プロジェクトリーダーの Jane Goodwin 氏（英国）の説明に従って、WG 1 は内容の再確認を行い、国際規格原案（DIS）投票に進むこととなった。

2 ISO 19898 船舶及び海洋技術—人員回収装置

海上に落水した人を回収するための装置の規格である。WG 1 は委員会原案（CD）投票で提出された意見等について審議し、プロジェクトリーダーの Petur Th Petursson 氏（アイスランド）が WG 1 の審議結果に基づき修正を行うこととなった。



3 ISO 15738 船舶及び海洋技術－膨張式救命設備のためのガス膨張システム

宮崎は、プロジェクトリーダーとして、これまでの審議経過を踏まえて作成した規格改正原案について説明し、内容についての合意を図った。本現行規格は 2002 年発行で、ガス膨張システムを構成する部品等が技術の発展で現行規格と合わなくなっているとの指摘があり、現行規格の構成を変更する必要性と、それに伴い新規内容の追加を検討する必要性が WG 1 で合意されたため、引き続きプロジェクトリーダーが改正原案の修正を行うこととなった。

4 その他の新規規格の状況

「ISO 16706 船舶及び海洋技術－降下式生存艇乗込装置の係留と降下の荷重算定」は 2016 年 10 月 20 日に発行された。

「ISO 16707 船舶及び海洋技術－降下式生存艇乗込装置の容量の算定」は、2016 年 1 月 24 日に発行された。

「ISO 18079 船舶及び海洋技術－膨脹式救命設備の整備」は、膨脹部を有する救命設備の整備に関するもので、「第 1 部：一般規定」「第 2 部：膨脹式救命いかだ」「第 3 部：膨脹式救命胴衣」「第 4 部：降下式生存艇乗込装置」「第 5 部：膨脹型救助艇」からなる。本規格シリーズは、今年 5 月にアイスランドで開催された WG 1 の会合（以下、レイキャビク会合と記す。）ですべての修正が終了しており、最終国際規格原案（FDIS）投票に向け準備が進んでいる。

「ISO 19897 船舶及び海洋技術－降下式生存艇乗込装置－氷結試験」は、レイキャビク会合の決定に基づき、ISO の規定に合致していない図が削除され、DIS 投票に向け準備が進んでいる。

「ISO 17339 船舶及び海洋技術－救命艇及び救助艇のためのシーアンカー（改正）」は、今年 11 月 15 日に DIS 投票が開始しており、2017 年 1 月 7 日に投票が締め切られる。

5 今後の作業項目の状況

WG 1 は、Hydrostatic release units の内部が腐食するという事例を受け、これを防止できるように「ISO 15734 船舶及び海洋技術－Hydrostatic release units」を改正することについて議論した。WG 1 の要請を受け、Henrik Palsson 氏（スウェーデン）がさらに検討することとなった。

レイキャビク会合の決定に従い、日本が用意した極海コードに対応する救命設備に関する新規規格の概要について議論した。その結果、規格の考え方については賛同が得られたが、救命設備をグループ化することについては保留とし、いったん LSA Code の目次に沿って個々の設備にばらし、各設備の内容を詰めた時点で再度グループ化を検討することとなった。WG 1 の要請を受け、宮崎がこれらの修正を行うこととなった。

S. Bas Janssen 氏（オランダ）の発表による問題提起等に基づき、落水者の発見に役立つと考えられる個人用の位置表示ビーコン（Personal Locator Beacons（PLBs）もしくは Man Over Board Beacons（MOB Beacons））に関して議論した。WG 1 の要請を受け、Janssen 氏が、新規作業項目提案を準備することとなった。

6 今後の予定

次回の SC 1 及び同 WG 1 会合は、2017 年 5 月 23 日～25 日に、当所において開催される予定である。